

Japanese Nurse PractitionerがPICCの留置と管理体制の構築に与える効果についての研究

川崎竹哉[†] 薄井真悟* 齋藤武文

IRYO Vol. 78 No. 1 (54-59) 2024

要旨

【背景】末梢挿入型中心静脈カテーテル (peripherally inserted central venous catheter : PICC) は中心静脈カテーテル (centrally inserted central venous catheter : CICC) に比べてカテーテル感染や重篤な合併症が少ないことから、徐々に関心が高まっている。そこで、JNP (Japanese Nurse Practitioner) によるPICCの留置と安全な管理体制の構築が患者や医療者に与える影響について検証した。【方法】2017年4月から8月に看護師117名とPICC留置患者57名にPICC管理に関する現状調査を実施し、2018年5月から8月に看護師92名にJNPがPICC管理研修を実施し理解度を調査した。また、2017年7月から2018年9月に超音波ガイド下で静脈穿刺をし、PICCをナビゲーションを使用せず留置した群56例と、ナビゲーションを使用して留置した群29例を対象にそれぞれ比較検討した。【結果】PICC管理に対する看護師の理解不足が明らかとなったが、JNPが看護師教育に携わることにより、PICC管理に困惑している看護師は57.6%から23.0%に低下した。PICC留置時の超音波ガイド下静脈穿刺の成功率は85例中85例 (100.0%) であり、カテーテルの上大静脈内への留置は、ナビゲーション不使用群が56例中42例 (75.0%)、ナビゲーション使用群が29例中29例 (100%) であった。【考察】JNPは看護師の適切なPICC管理に繋がる教育に寄与できる可能性が示唆されたが、単発の研修は看護師のPICC管理に関する知識や技術の低下を招くことや不適切な管理に繋がる可能性がある。また、JNPは超音波装置とナビゲーション装置を使用することで、ベッドサイドにおいて安全にPICCを留置でき、透視による患者の被曝や透視室まで移動する患者、看護師の業務負担の軽減にも寄与できることが示唆された。【結語】JNPがPICCの安全な留置と看護師による適切なPICC管理に寄与できる可能性が示唆されたが、看護師への教育は定期的実施し、質を維持する介入が必要である。

キーワード JNP, PICC

背景

中心静脈カテーテル (central venous catheter:

CVC) は、輸液や薬剤、静脈栄養の投与を安定して継続的に実施するために欠かすことのできないデバイスである。種類としては、内頸静脈、大腿静脈、

国立病院機構茨城東病院 呼吸器内科 *臨床研究部 †診療看護師

著者連絡先: 川崎竹哉 国立病院機構茨城東病院 診療部 〒319-1113 茨城県那珂郡東海村照沼825

e-mail : kawasaki.takeya.gs@mail.hosp.go.jp

(2023年1月12日受付 2023年8月4日受理)

A Study of the Effect of Japanese Nurse Practitioner on PICC Implantation and Management Systems

Takeya Kawasaki, Shingo Usui*, and Takefumi Saito

Department of Respiratory Medicine, *Department of Clinical Research, NHO Ibarakihigashi National Hospital

(Received Jan. 12, 2023, Accepted Aug. 4, 2023)

Key Words : Japanese Nurse Practitioner, peripherally inserted central venous catheter